

って、黒谷川ぞいの林道に出る。

(記)

[タイム] 城郭朝日山(11:00)→砂防ダム(14:05)→左俣出合(14:20)→黒谷林道(14:45)

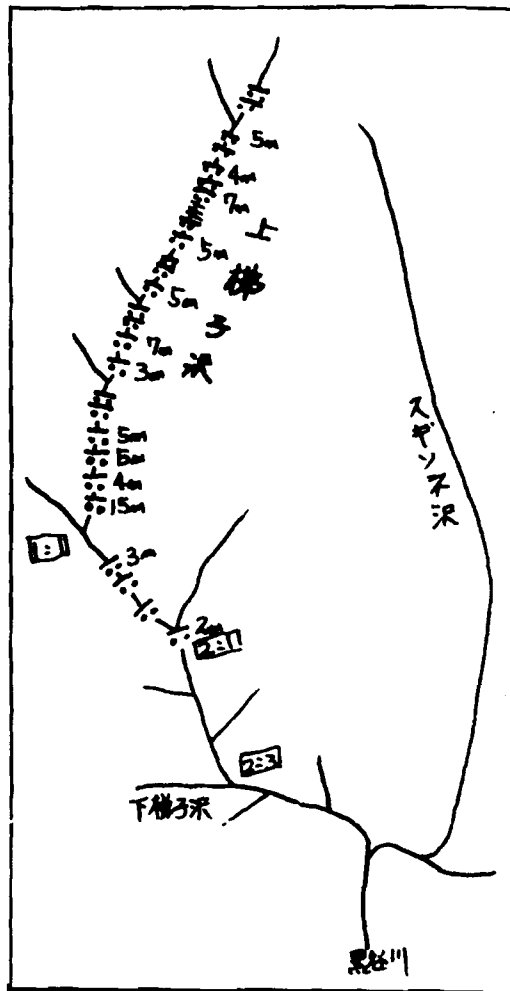
黒谷川支流上梯子沢

1992年8月29日～30日

し)

8月29日 林道ゲート(7:20)→沢(8:15)→上梯子沢出合(11:30)

林道のゲート付近で野営していた都戦山の会のメンバーと一緒に遡行する。ゲート付近は大きな広場となっているが、大部分はダム工事用トラックの回



転用スペースとして利用されており、駐車スペースは数台分しかない。駐車スペース以外の部分には駐車禁止の表示があり、そこに駐車して出発した釣師の車は、強制的に移動させられてしまった。

林道を歩き始める。かなりしっかりした道であるが、途中からヤブがひどくなり沢に降りる。林道も沢も、釣師が捨てたと思われるゴミでいっぱいである。都戦山の会とは、パーティは別々であるが行動は一緒ということで歩く。平凡な川原が続きあきてきた頃より、釣り糸をたらずも効果なし。

11時30分、上梯子沢出合着。少し早いですが、ここでテントを張ることにする。付近は釣師も野営する場所らしいが、ゴミがひどく、テントを張る前にゴミを燃やすことから始める。夕立の後、なんとか吊り上げたイワナを味わいながら、たき火と宴会という、当初山行

の目的を、何とか実現する。

8月30日 幕营地(5:50)→稜線(10:05)

2日目は、荷物をまとめ、日帰り装備で沢に入る。手頃な滝が次々にかかるが、何なく越えてゆける。入谷前に読んだ記録にあった滝の連続というには、スケールの小さい滝が多い。しかし、それなりに楽しめる沢である。

都職山の会のメンバーが今日中に東京に帰るということもあり、早目に稜線にぬけようと、急ぎ目に水流をたどる。若干のヤブこぎで、尾根に上がった。

(記・

黒谷川支流スギソネ沢 1992年8月29日

上梯子沢の遡行終了後、稜線でひと息いれる間もなく、スギソネ沢への下降に移る。下降はヤブがひどく、沢に下ってから両側からヤブがかかる。滝もない。単純な沢にあきあきした頃、黒谷川本流出合。少し下ると、前夜幕営した上梯子沢の出合であった。

荷物をまとめて帰路につく頃より、雨が降り始める。そして次第に沢の水が増えてくる。急いで下り、右岸に踏跡が出てきたところで沢から上がる。しばらくして下を見ると、濁った泥流となっていた。黒谷川上部も、伐採などで荒れているようである。静かない地域であるが、釣師のゴミの多さにまいった一日であった。

(記・

[タイム] 下降開始(10:05)→黒谷川本流出合(13:00)

伊南川支流巽沢左俣 1992年10月3日

ズタリ沢から踏跡のある尾根を越えて、巽沢左俣の源流に降り立つ。9時30分、下降開始。尾根を1本へだてただけのズタリ沢が滝の連続であったのに対し、巽沢は平凡である。高度こそどどん落してゆくが、滝はかからない。やがて前方